

韓国レポート 2012

2011年10月ハノーファーのAGRI TECHNICAに出展した当会のブースに、韓国の国際農業博覧会組織委員会から「2012国際農業博覧会」への出展要請があった。国際農業博覧会の開催期間は10月5日から29日までの約1か月間であるが、農業機械関係展示の期間10月5-9日の6日間である。日本にプロモーションに行く予定であり、北海道へも伺いたいので対応をお願いしたいとのことであったので了承した。

後日、韓国より来訪日程の連絡があり、業務報告によりプロモーションの案内を会員に連絡した。プロモーションは、3月9日9:30よりタケサトビル会議室で行い、会員6社が出席した。国際農業博覧会組織委員会から、Seunggon YouとYoungkyoung Sonの2名が来道され、博覧会の開催内容や準備状況、申込みなどについて説明があった。当会会員からは、(株)エフ・イー、石村鉄工(株)、一般社団法人北海道農業機械工業会が出展した。

【国際農業博覧会】

開催場所は全羅南道でソウルから車で約4時間南に下った羅州(Naju)である。羅州は小さな町で、近くに大きな光州市(Gwangju)がある。農業博覧会の会場は光州と羅州との中間にあり、光州からバスで約20分南に下った場所である(図1)。会場は「全羅南道農業技術院」(韓国の農業試験場)の敷地で、常設とテント張りの展示会場であった。会場内の一部に農業技術院のビニールハウスがあり、展示会場の外は試験圃場が広がっており、ここは立ち入り禁止であった(図2)。

海外からの展示は約100ブースで、タイ、フィリピン、インドネシア、オーストラリア、スペイン、デンマーク、フランス、オランダ、ポーランド、イタリア、ロシア、パキスタン、イスラエル、ケニア、エクアドル、中国などの諸国で、中国、ポーランド、イタリアの出展数が多かった。

大半はお菓子、缶詰、ジュースやワイン、ウオッカなどの飲料、など食品関係が多く、アクセサリーも見られた。日本からは当会から3社、佐賀県、広島県の大豆関係の会社であった。

農業機械の展示はイタリア、デンマーク、オランダ、イスラエルおよび日本の当会など数か国であった。韓国の農業機械展示は別の建物で行われており、トラクタ、耕うん機、防除機、草刈り機、乾燥機など59社の農業機械が展示されていた。柿の皮むき器と乾燥機の展示があり、地域性を感じた。

農業博覧会事務局の資料では、農業博覧会の出展企業は国内外あわせて420社で、そのうち韓国317社、海外は103社である。来場者人数は10月5-29日までの25日間で115万人である。今回の博覧会で、24件の農産物購入契約と現場販売1千880億ウォン、市の直接輸入26億ウォンであった。対外販売契約はすべて2,272万ドルに達し、海外バイヤーはエコ機能性塩と海藻加工



図1 パンフレットと会場地図

製品にも関心が高かった。

国内では、生態幼児共同体など州内 5 カ所の生産者代表が 320 億円の環境にやさしい農産物の購入契約を締結し、全国農協一つでクラブ全店に納品することができる農協卸売事業団とは 800 億ウォン、ロッテマート、E マートなどの大型流通企業と 466 億ウォンの購入約定で計 1 千 586 億ウォン規模の固定納品することになった。会場では、農資材と農業、食品展示販売館では、420 以上のメーカーが安くて品質の良い農特産物を展示・販売し、35 億ウォンを売り上げた。その他、学生の好奇心を刺激する様々な植物や昆虫を展示し農業と農村文化の過去、現在、未来を見て感じる体験教育の場を設け、幼稚園、小、中、高、グループの観覧客が 30 万人が訪れた。

国内外の様々な農業機械の展示も人気を集めた。米国のジョンディア社などの海外トラクタ、ピレリーのタイヤなどの、国内 5 大メジャー企業を含む 59 社が参加し大型トラクタまで多様に展示しました。このうち 300 馬力のエンジンで 150m まで噴き出る環境にやさしい広域ダスターと燃料節約型のトラクタなどが人気を集めた。

約 1 カ月間の展示期間内に多くの人々が参加しており、また商談も進み、田舎で初めての農業博覧会であるが、成功したと考えているようである。しかし、事前連絡が不十分、分かりづらいパンフレット、突然の日程変更など不慣れな点も多く見られたが、実行を引き受けたイベント会社は良く、大変お世話になった。



図 2 展示会場の見取り図

【 農業博覧会 写真集 】



図3 正面ゲート



図4 展示会場



図5 北海道のブース



図6 北農工の展示



図7 キムチの国 韓国



図8 韓国の農業機械ブース



图 9 耕うん機や防除機



图 10 防除機



图 11 ロータリ



图 12 歩行式カルチ



图 13 代掻き均平板



图 14 韓国の農家女性

北農工の展示では、石村鉄工の耕起作業機、エフ・イーの洗浄機などに多くの来場者があった。当会のスライドでは豆の収穫機、レーザーレベラ、歩行用のポテトプランタの資料がほしい、またニンニク、タマネギ、白菜、ダイコンの機械化システムを知りたいなどの要望が寄せられた。

稲作関係の機械化は進んでいるように見られたが、畑作や野菜作の機械、選別機などはこれから進展すると思われた。耕地面積は狭いためティラーや歩行式防除機、草刈り機などが主流で、農産物価格も低いため、機械投資は徐々に増加すると思われた。